

## 12月 p4c Japan ミーティング報告

- 日程 2015.12.13 (日)
- 時間 17:30-19:30
- 会場 大阪大学中之島センター605
- 参加者 大学教員1名 小学校(公立)教員2名 中高一貫(私学)教員1名  
中学(国立)教員1名 社会人/母親1名 通信・単位制高校(私学)1名

### ①「こどものための哲学」の「こども」とは？

- ・オーストラリアでは、Philosophy in School と表現し、Children をとっている。
- ・学校現場で行う哲学とすることで、無限定に拡散する「こども/哲学」とわれわれは一線を画すことができるのではないか？
- ・目的の明確化：単に民主主義を具現化し得る「市民」育成のためでいいのか？ 例えば衆愚政治は民主主義体制において現出し、民主主義は衆愚政治を補完する。民主主義という概念の吟味も必要であろう。
- ・学校ですることの覚悟性（「趣味的な試みではいけない」という警鐘）

p4c Japan では、Cam に倣い「こども」ではなく「In School」を採用しましょう。

どの学校も抱えている「困難性」にコミットしえるような活動

②報告 40人1重で行っていたものを20人で対話：20人がオブザーバーという形で実践したら随分とよい授業ができた。（パートナーを決め、必ずコメントの「付箋」をその人に渡す。+よい発言をした人に「付箋」を渡す）「付箋」をもらうことが「モチベーション」の醸成につながる。=コメントをもらえるような態度になる。

- ・男女の仲が良くなるとか友人関係が変容するとか本来友人になり得ないような児童同士が親友になる。/話さなかった子がはなすようになる。/信頼関係ができる。/答えがないことを希求 など

コミュニケーションが円滑になる-p4c 効果

合理性 ←→ 民主主義

ゆっくりと融合

### ③保護者に如何にアピールするか？

p4c が児童・生徒の言語生活に影響を与え、  
彼らがテレビの教養番組を視るようになる。  
(p4c が、生活言語を変える可能性)

文責:辻村